

平成23年度個別施策ヒアリング資料(優先度判定)【経済産業省】

施策番号	27142	施策名		環境適応型小型航空機用エンジン研究開発			
新規／継続	継続	領域	グリーン・イノベーション	国際的位置付け	世界最先端	AP施策	
競争的資金		e-Rad	○	社会還元			
施策の目的及び概要	エネルギー使用効率を大幅に向上しかつ低コストで環境性能にも優れた次世代小型航空機用エンジンの実用化に向けた技術を開発することにより、エネルギー需給構造の高度化を図ることをを目的とする。						
達成目標及び達成期限	平成26年度までに、既存のエンジンに比べ、省エネ、低燃費、低炭素、低NOx等に優れた環境適応型航空機用エンジンの開発を実現することを目標とする。						
研究開発目標及び達成期限	平成26年度までに要素技術を開発し、インテグレーション技術を確立する。						
23年度の研究開発目標	平成23年度中に、要素技術の実証試験、インテグレーション技術の開発を行う。						
施策の重要性	省エネ・低燃費・低炭素・低NOxの観点から優れた特性を有する環境適応型小型航空機用エンジンの小型航空機における適用範囲の拡大が期待出来ることから、我が国の省エネルギーを推進する上で重要な施策である。						
実施体制	研究開発主体は公募により決定。本研究開発に合わせ、民間側(補助事業者)が大学との共同研究による連携体制を構築。 得られた成果は民間側(補助事業者)が実用化・普及の担い手となる予定。						
H22予算額(百万円)				H23概算要求額(百万円)			
534				803			
独立行政法人名(運営費交付金施策のみ)				NEDO			
H23概算要求額の内訳	助成費:787 研究開発管理費:16 －						
期間	H15～H26			資金投入規模(億円)		121	
これまでの成果(継続のみ)	環境適応型小型航空機用エンジンの要素技術の開発、これら要素技術の実証試験の準備、インテグレーション技術の検討を行った。						
社会情勢・技術の変化(継続のみ)	小型航空機需要は今後拡大する見込みであり、また、既存の同クラスのエンジンは、80～90年代前半に開発されたものであるため、今後新型エンジンの需要拡大が見込まれている。また、国内メーカーの国際共同開発への参画は、ファン、低圧タービン等の低圧系の部位が中心となっており、当該部位においては国際レベルの技術が蓄積されているものの今後プライムとしての参画を果たすためには、高圧圧縮機、燃焼器等の高圧系の技術とともにエンジン全体を統合化する技術を獲得する必要がある。						
昨年度優				(昨年度優先度判定時の指摘) ○小型、短中距離機の需要拡大が見込まれる中、省エネルギー性、低炭素排出性を含む環境適合性や低騒音などの対人環境性の課題を克服することは国際競争力を確保する上で重要な項目であり、技術優位性をもって我が国がエンジ			

先度判定 (継続のみ)	着実	優先度判定時の指摘 への対応(継続のみ)	ン開発を主導する好機とすべく、着実に実施すべきである。 (上記指摘への対応) 我が国がエンジン開発を主導する好機とすべく、着実に実施するため、必要な予算の確保に努めている。
国民との科学・技術対 話推進への対応(対象 施策のみ)	現在NEDOにおいて対応を検討中		